



2018 年を新しい気持ちで迎えることができました。まず、一番のサプライズはドイツから友人のイネスさんのお電話でした。ご当地はちょうど年が明け、真夜中のようにでした。新年を祝う花火が盛大に打ち上げられたばかりで、彼女の弾んだ明るい声が祝福を告げてくれました。そして、今年こそ、ドイツにというお招きでした。**想定外だった予定**を考えなければなりません。

横浜港南台教会での元旦礼拝に、家族そろって参加することができました。まず祈りを捧げて、一年を始めたのが**一番の感謝**です。司会者の心を込めた祈りの一つ一つの言葉に、思わず涙が流れてきました。今年**最初の涙**でした。歳をとると涙もろくなると言われます。まさにそうかもしれませんが、深く感動し、心を合わせて祈りました。国内外に、途方もない困難を抱えているのに、私たちは微力です。イエス様の愛の支え、力強い導きなしには歩めないと思い、心から助けを求めつつ歩みたいと願いました。



去年は上の孫が受験勉強のために、欠けましたが、今年のお正月を、息子家族全員と共に祝うことができました。**一番の嬉しさ**です。一人息子が優しい、賢い妻を得て、三人の孫が与えられました。一人は幼いままに天に召されましたが、それゆえに、私たち家族にとって、天国は身近なところ、帰るべきところとの思いも与えられました。家族がイエス様と共に歩めますようにという祈りが毎日の祈りです。**お正月の飾り**のために友人からお庭の千両をたくさん頂き、改まった気持ちのために松を、そして、今年の私の小さな歩みが明るいものでありますようにとの願いを込めて、黄色いスプレーカーネーションを添えました。

お料理の苦手な私にとって、母から譲り受けた重箱は、できるだけ早めに次世代へ、と思っておりますが、今年も何とか大みそかに詰め合わせるすることができました。時間に余裕が出てきましたので、今年三品、追加で、調理してみました。けれども全く自信はなく、むしろ素材を生かしたお鍋が、簡単でおいしいと思うし、好きです。でも鍋は重箱には入れられないのです。息子は「秘蔵 しばりたて」の原酒を、るりちゃんはおしゃれに、素敵にアレンジした一皿と、実家に伝わる味のお煮しめを持ってきてくれて、お正月の食卓は**豪華絢爛**となりました。

それと、食後には「ウエスタン流茶道家元」を自称する夫のために、京都の抹茶と秋田の落雁を持参してくれました。しかも「戌年ヴァージョン」のものでした。**初釜**となりました。



このように、喜びにあふれて新年を迎えましたが、実はアドベント、クリスマスの期間中は少し意欲を失い、何かをする気分になれなかったのです。昔からの親しい同級生たちが難病に苦しみ、ある人は認知症も発症し、またある人は不自由な体になり、それぞれが、ままならない日々を過ごしておられるからでした。友人たちに何の手助けもできないのです。ただ、覚えて祈るだけです。

高齢者の悲哀とでもいうのでしょうか。自分が生かされていることを喜び、感謝しつつも、苦しさもいつも付きまとい、離れません。この思いを抱え、これが生きているということなのだ、行く道なのだと思いつくづいいます。残された日々、できる限り、今を大切に、友人を覚えて、自分にできることは、少しでも心がけたいものだと思っています。